

成果報告書

実施機関名（武雄市教育委員会）

1. 事業の概要

肢体不自由特別支援学級に在籍し、医療的ケアを必要とする小学校4年生児童の学びの充実を目指して以下の目的、目標を設定し、研究を行った。

(1) 目的

障害のある児童の学びの充実のため、障害の状況や特性などを踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行う。

(2) 目標

- ①音声言語によるコミュニケーションが困難な児童に対して、コミュニケーションツールとしてのタブレット端末の利活用により適切な教材選定・活用を探る。
- ②タブレット端末、パソコン等のICT機器利活用による学習指導に効果のある学習アプリケーション等のソフト選定・活用を図る。

目標を達成するために、以下の実践を行った。

① 児童の実態把握

5月に、言語力の実態把握のため、J.coss日本語理解テストを実施した。また、計算力や漢字の定着について実態把握を行った。四則計算については市販の計算ドリル（繰り上がりたし算、繰り下がりひき算、かけ算（九九）、九九を使ったわり算）の合格検定に取り組んだ。漢字については、教科書の新出漢字の書き取りテストに取り組んだ。

② 授業実践

国語、算数の中で、タブレット端末やパソコンを取り入れた授業を展開した。特に、国語の授業では、以下のように3回の研究授業に取り組んだ。授業に取り組む前に、評価会議で、教材やICT機器、使用アプリケーションについての協議と講師からの指導助言を受け、授業実践を行った。また、授業実施後は、教材やICT機器、使用アプリケーションが適切であったかを協議の柱とした授業研究会を実施した。

6月実施の研究授業は、校内研究の特別支援教育グループの代表授業として、「分かったことを文章に表して伝えよう」（光村3年下教科書「しりょうから分かったことを、すじ道を立てて話そう」より）を単元に設定し、授業を行った。

10月実施の研究授業は、武雄市のICT機器オープンデーの公開授業として、「自分の考えを文章に表して伝えよう」（光村4年上教科書「組み立てをを考えて書こう」より）を単元に設定し、授業を行った。

12月実施の研究授業は、武雄市特別支援教育部会の研究授業として、「つなぎ言葉について考えよう」（光村4年下教科書「言葉について考えよう 文と文をつなぎ言葉」より）を単元に設定し、授業を行った。

③ 評価

12月に、再度、J.coss日本語理解テスト、四則計算の合格検定、漢字の書き取りテストに取り組み、児童の5月の実態と比べ、評価を行った。

2. 事業の成果

評価会議で、教材やICT機器、使用アプリケーションについての協議と講師からの指導助言を受け、授業実践を行ったことで、児童に適切な教材を設定することができた。ICT機器を使用する場面や、使用するICT機器、アプリケーションを検討して、授業実践を行ったことで、児童の国語や算数の学力と、コミュニケーション力を高めることができた。授業の中では、意欲的に楽しく課題に取り組む児童の姿が多く見られた。ICT機器を取り入れた学習で、児童の授業内容の理解力を高めるだけでなく、授業への集中力を身に付け、学習へ向かう態度を育てていくことができた。

また、問題や課題に取り組む中で、「できた。」「わかった。」と感じたり、作文や物語を完成させたりすることで、児童は充実感や達成感を味わうことができた。

3. 今後の課題と対応

これからも、児童が楽しく授業に取り組むとともに、理解を深め、自己肯定感を高めることができるように、ICT 機器の効果的に取り入れながら、授業づくりを行っていくことが必要である。そのためにも、授業の中で、ICT 機器を使用する場面や、使用する ICT 機器、アプリケーションを検討して、授業実践を行うことが重要である。

4. 問い合わせ

- ① 組織名：武雄市教育委員会
- ② 担当課室：学校教育課
- ③ 電話番号：0954（23）8010
- ④ FAX 番号：0954（23）7585
- ⑤ メールアドレス：gakkou@city.takeo.lg.jp